

J I A広島地域会まちづくり委員会から提案 (その2)

第21号(平成28年1月15日)

提案6. 河川街の整備

みんなで考え、みんなで育てる「ひろしまのまちづくり」が本レポートのモットーであり、グランドデザイン「ひろしま市民ひろば」や、それに沿ったモデルは、『考え続けること』を行える場所《空間》の提案といった大きなテーマがあり、提案自体が市民に議論の材料を提供することを目的としている。

どういったカタチがよいのか、どうするべきなのか、常に『BEST』の答も変化するものである。

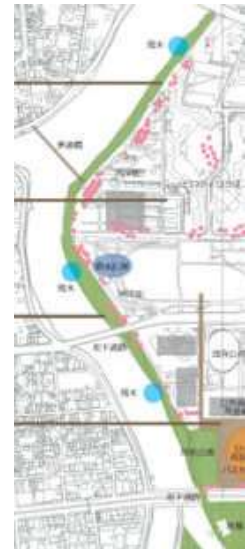
そういった中で広島市は平成15年に策定した「水の都ひろしま」構想の実現を目指して旧市民球場跡地周辺をモデル地区とし、オープンカフェや水辺のコンサートなどを推進してきた。

ただ、これだけ川の多い広島なのに、意外と川遊びの習慣や場所も少なく、リバーサイドが都市生活に活かされていない。現在の川までの距離感やレベル差が壁になっているように思う。

河川街って？具体的に言葉で表現するのは難しい。川沿いの店舗、川からの見た目を意識した街並み、入り口が川側から街（ひろしま市民ひろば）へ通り抜けることができ、人と川を結びつける。・・・

少し乱暴な言い方になるが、仮設でも、試験的でもよい。まずはやってみることが最も大切ではないだろうか。

考える「場」、議論の「ネタ」が提供され、人が集まると何かが起こる。・・・



配置イメージ
ピンク色が店舗等

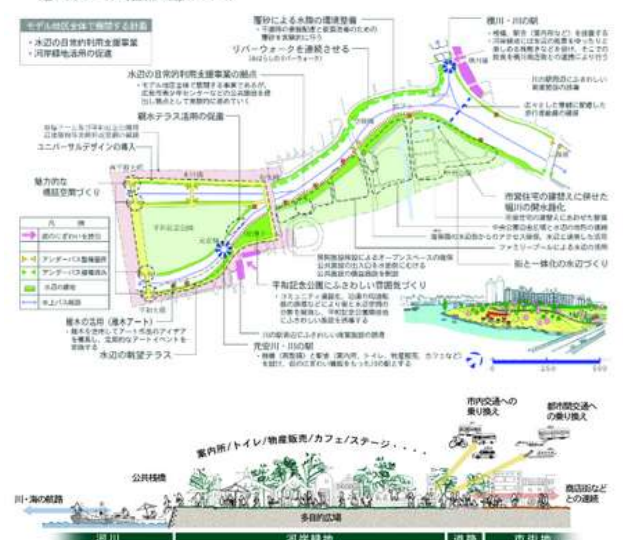
具体的な手法については、「ひろしま市民ひろば」と同様、どうあるべきかを考え続けることが大切であるが、現段階での提案は以下の通りである。

- ・河岸に沿って貸店舗型の公共施設を配置し、企画テーマに沿った入居者を選定して定期的に入れ替える。（企画展開型商業施設）
- ・子供たちの親水プールや野外音楽施設を配置
- ・横川地区からの歩行者専用橋を設置
- ・河岸の雁木を利用した川の駅を設け、周辺にトイレ・休憩所・売店・カフェ等を整備

河岸に賑わいと回遊性を持たせる環境作りを提案している。

旧太田川(木川)(三篠橋～西平和大橋)・元安川(相生橋～平和大橋)地区 テーマ「水の都ひろしまのシンボルとしての水辺づくり」

○広島を代表する水辺として観光スポットになるような、誇りある水辺空間づくりを行うとともに、水辺と街の一体的整備を進めていく



市の「水の都ひろしま」構想より

(日本建築家協会広島地域会まちづくり委員会メンバー 高志俊明)

提案7. 基町高層住宅の再整備

- ・住環境への要求の変化が予想される基町高層住宅群を賑わい作りの資源として活用します。
- ・ピロティ部分をマーケットや飲食空間とし、隣接する河川街へ人の流れを作ります。

基町高層住宅は、被爆からの着のみ着のままの応急的復興の中であって、いわば自然発生的に形成された住まい群に端を発している。

戦災後そして復興期の越冬のための避難施設として1815戸の公的応急住宅が建設される。更に、平和記念公園等の都市計画事業の施行により移転を余儀なくされた人たちのために土地の一時使用が認められた民間住宅も建設された。

また原爆により地方に散らばっていた人たちや外地から引き揚げてきた人たちは不法と知りながらも、雨露をしのぐために河川敷や公園用地等空いている場所に家を建て居住を始めた。1960年には、それら不法に建てられた住宅は1000戸を超えた。

このような不良住宅地区でも、住民の創意工夫をこらした生活が営まれ、特徴あるコミュニティが形成されていた。一方、老朽化や衛生面の粗悪な環境、火災の多発など生活する上で危険な状態にあった。



配置図



基町高層住宅全景

広島市はこの地区内の市営住宅用地分について1956年に公園整備を進めるとともに公園用地の一部を「一団地の住宅建設用地」として計画変更し、市営住宅を解体して中層住宅の建設を行なった。さらに他の民間住宅を含めた不良住宅についても、全面クリアランスを目指した抜本的な方策が求められた。

一方、このプロジェクトは国が積極的に支援・推進を図った。その背景には都市人口の増大、都心部の土地供給の低下、郊外へのスプロール悪化等への対策として、より高密度かつ良質な都市居住の実現につながる高層住宅団地開発のモデルを打ち立てたいという指向があった。人口減少社会や高齢化社会に向かう今日、改めて当高層住宅団地のもつ空間的魅力を再考する。

設計者大高正人氏は、まちと住宅の連結を強く意識し、建築空間の「社会化」を計画の理念の中心に置き、住宅としての「居住性」の確保と周辺環境(中央公園、広島城)と一体となる「都市的空間」の実現を図った。

荒廃した広島町の町に様々な都市的空間(屋上庭園、ピロティ、学校、幼稚園、商店等)を備え、立体的にグルーピングされた住戸群は新しいコミュニティが誕生する期待に満ちていた。

特にオープンスペースの計画内容をみると、小学校、幼稚園、保育園、児童館、老人集会所、集会施設を都市的に解決する人工地盤や自動車道路と歩行者路の分離の他、約6mの高さを持つピロティと総延長1,400m、面積14,000㎡の屋上階庭園がまさに空間の社会化の両輪であった。

しかし、現在では、「周辺からの孤立化」、「一般市民を惹きつける吸引力が弱い」、「コミュニティ形成を期待された要素が市民に開かれていない」といった課題を抱えており、実践的で具体的な対応が急務となっている。

こうした中、広島市は「基町地区活性化計画」(2013年)を策定し、様々な取り組みに着手しているが、それらは主に団地内の居住者における取組みに重点が置かれ、居住者の変化に伴う対応が不十分のように思う。

そこで、条件型計画から課題解決型計画に視点を置き、公的住宅の枠組みを超えて、ピロティ空間及び屋上階庭園の公開（**建築空間の「社会化」の実現**）を提言する。

- ・この地区は外国に関わる人が半数近く住んでいるので、更に国際色豊かな地域づくりを積極的に推進する。ピロティでは国際バザールの開催や世界の料理が食べ歩きできる飲食街を設置。
- ・外部から屋上庭園に直接アクセスできる縦動線を設け、自由に利用可能とする。屋上は空中庭園とし、展望スペースやレストラン等を整備。夏季にはビアガーデンを開設。その他



空中庭園

＊住宅地区改良事業が県と市の間で合意された時の条件として「基町に居住することによって特別な権利を与えるものではない」とされているし、事業運営面からもその家賃の設定に当たって、屋上・エレベーター・ピロティ等一般市民に開放する部分の工事費は控除していると聞く。

参考文献：代表的計画市街地・広島基町住宅地区の検証と次代への展望に関する研究（財団法人アーバンハウジング 広島大学大学院 建築計画学研究室 平野義信、石垣文）（2011年）

（日本建築家協会広島地域会まちづくり委員会メンバー 前岡智之）

第23号（平成28年5月15日）

総括その1. 日本建築家協会広島地域会まちづくり委員会の検討結果

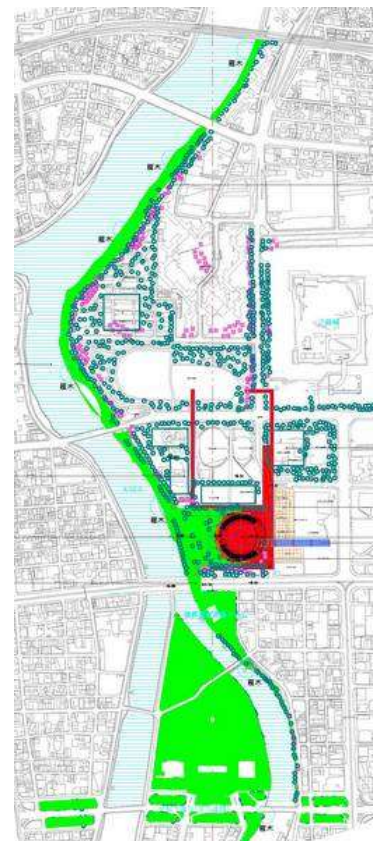
なにかと騒がれる旧広島市民球場跡地だが、平和を希求し続ける都市・ひろしまの都心の要の位置を占めている。この地について広島文化会議準備会メンバーや若手アーティスト等とのヒアリングを行い、まちづくり委員会はその結果を踏まえて議論を重ね、以下の方向性をまとめた。

（基本的な考え方）

- ・広島のまちづくりの憲法ともいえる「広島平和記念都市建設法」の精神を継承し、国際平和文化都市ひろしまを象徴する空間とする。
- ・原爆ドームは世界遺産に登録され、このエリアはバッファゾーンに位置し、広島から世界に向けて恒久平和のメッセージを発信する重要な役割を担っている。
- ・平和記念公園及び原爆ドーム周辺は国内外から多くの人々が訪れる一方、中央公園にある芝生広場や県立総合体育館等の公共施設は、多くの市民・県民が日常的に利用する憩いや交流の場である。球場跡地は両者のつなぎの場に位置し、平和記念公園と中央公園を連携させて、原爆ドーム周辺の品格ある雰囲気と都市的な賑わいのバランスのとれた空間とする。
- ・原爆ドームと同様に基町環境護岸に接しており、球場跡地と基町環境護岸を一体化させることにより、平和記念公園と中央公園をつなぐ役割をより強固なものとする。
- ・ひろしま市民の協働の場として、自立し多様な変化に対応できる管理運営体制とする。

（コンセプト）

- ・平和への祈りと祭りを連続して体験でき、市民のみならず国内外の人々が出会い、交流する緑豊かな空間とする。
- ・様々な用途に利用できる可変性のあるオープンスペースとする。



全体計画図（案）

- ・原爆ドームに訪れた外国人が必ず立ち寄り、広島歴史や日本文化に触れ、お互いの国の理解を深め合うため、このエリアに国際文化交流機能を新たに導入し、その前広場とする。

(クリアすべき課題等)

- ・商工会議所ビル等の河岸沿いの建物の移転先を確保するため、NTT再開発事業（仮称）に取り組む。
- ・既存の老朽化した市の建物（青少年センター、こども文化科学館、中央図書館）と新たな国際文化交流機能を再編し、段階的な適正再配置を検討する。
- ・そごう3階に入居しているバスセンターが将来移転できる環境をこの地に整える。
- ・球場跡地を中心に原爆ドーム、県立総合体育館、基町クレド、シャレオ等、地下レベルでの回遊性を高める。

(空間のイメージ・アイデア等)

- ・平和記念公園から中央公園に伸びる空間軸（丹下軸線）に何かシンボルを配置する。
- ・そごう等の商業地区から河岸緑地に伸びる空間軸に大屋根を架ける。（将来設置対応）
- ・適正に再配置された公共施設の前広場を「ひろしま市民ひろば（仮称）」とし、その地下部に将来、バスセンター及び観光バス駐車場が建設可能な準備を公共施設にしておく。
- ・市民ひろばから河岸緑地へのつながりはバリアフリーとし、堤防の土手をスムーズにクリアさせる。
- ・まず、イベント等可能なひろばと県立総合体育館等の公共施設へのアクセス環境と緑化を整備する。次に、再編された公共施設を段階的に整備する。



配置計画図（案）

(実現に向けて)

まちづくり委員会は、これからも議論を重ね、次号からは具体的な空間イメージを提案していく予定である。今、球場跡地にサッカー場建設の賛否が話題となっているが、サッカー場に限り、あの地に大きな箱モノを置くことは平和記念公園と中央公園を分断することになり、反対である。旧市民球場があった頃も、球場に遮蔽された北側は閑散とし、夜歩くのも怖い雰囲気があった。

球場跡地は市民に親しまれる公共施設群と一体となった明るい場となるように建築家集団として微力ながら努力していきたい。

（日本建築家協会広島地域会まちづくり委員会一同）

第24号（平成28年7月15日）

2011年に広島市中央公園アイデアコンペを終え、地元の建築家として何か提案しなければという思いから、日本建築家協会中国支部広島地域会のまちづくり委員会で検討し、ひろしまのランドデザイン「ひろしま市民ひろば」をまとめた。2013年3月に広島市に報告し、各種イベントにおける展示・発表等で多くの意見をいただいた。さらに議論の輪を広げるため、これからより具体的な提案を順次紹介していく。

ステップ1. とりあえず今すぐできること

日常生活の中で本当は大変重要なことだけれども、直接自分に影響がないとつい見逃していませんか？

旧広島市民球場跡地は、面積 2.63 ヘクタール、前面路線価 50 万円/㎡として地価総額は 130 億円を超える市民の貴重な資産です。ここは、平成 22 年度(2010 年)9 月 1 日で閉鎖され、解体された旧広島市民球場は 6 年を向かえて、未だにその活用が軌道に乗っていません。

現在の球場跡地は、本格的な施設整備までの暫定利用として、平成 25 年(2013 年)9 月以降、同跡地を含む中央公園について、イベント開催に関する公園使用の許可要件を見直し企画提案型の公開利用を実現しています。1 年間の利用実績を見ると稼働しているのは、(平成 25 年度 69 日延べ約 125 万人) (平成 26 年度 56 日延べ約 67 万人) (平成 27 年度 61 日延べ約 75 万人) (平成 28 年度 16 日延べ約 17 万人、6 月 17 日現在) であり、概ね延べ 60 日程度、平均利用人員は約 90 万人である。これら以外の 300 日は塀に囲われて利用されていません。むしろ通行の邪魔だし防犯的にもいただけません。

これまでの一連の跡地利用計画の過程や事業方針の内容が物足りないと感じている市民は多いのではないかと。オバマ大統領の広島に思いを寄せたスピーチやオリバーストン氏などの著名人がひろしまを訪れて、思いを寄せて意見を述べています。外国人観光客が日本で行きたい都市として上位に挙げられるひろしまの原爆ドームと対峙するこの空間の利用は、平和を願い、こどもたちにこれを伝えるものでなければなりません。

暫定利用といいながら、利用できないのはどうでしょうか。少なくとも目標とする姿に向けての第 1 歩として、とりあえず今すぐできることを挙げてみましょう。

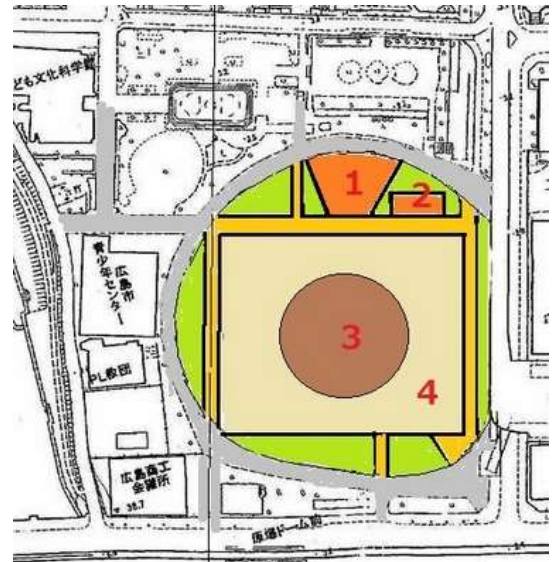
あの塀は止めませんか。せめて地面は、木とか芝とかで覆えませんか、給排水や電気などを最小限用意できませんか、いつでも誰でも自由に利用できるのが公園・ひろばではありませんか。365 日間 3000 人が利用すると約 100 万人となりますよ。



イマジンサークル

ニューヨーク、セントラルパーク、ストロベリー・フィールズにあるイマジンサークルを心ある市民が集まって、ここに誘致しよう。

(日本建築家協会広島地域会まちづくり委員会 前岡智之)



- 1 : スタンドに屋根を架け仮設ステージ
 - 2 : 仮設トイレ、倉庫、他
 - 3 : 木れんが等の仕上げ
 - 4 : 芝張り等 (ベンチ・日よけ等配置)
- グリーン部は緑化整備、イエロー部は歩道
その他、給排水、街灯・照明塔等の設備
- 球場跡地の配置図 (案)**